

## カービュー マーケットウォッチ (2013年1月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：大西 正義）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

単月では前年割れに転じたが、年間では大幅なプラス！

12年 12月順位	12年 11月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	アクア	トヨタ	20,397
2	(2)	→	プリウス	トヨタ	16,573
3	(3)	→	ノート	日産	9,828
4	(4)	→	フィット	ホンダ	8,380
5	(7)	↑	インプレッサ	スバル	5,250
6	(10)	↑	フリード	ホンダ	4,910
7	(5)	↓	カローラ	トヨタ	4,758
8	(8)	→	セレナ	日産	4,511
9	(6)	↓	ヴィッツ	トヨタ	4,175
10	(12)	↑	ステップワゴン	ホンダ	3,463
11	(15)	↑	フォレスター	スバル	3,109
12	(9)	↓	スペイド	トヨタ	3,044
13	(13)	→	ヴェルファイア	トヨタ	2,637
14	(19)	↑	スイフト	スズキ	2,584
15	(17)	↑	デミオ	マツダ	2,581
16	(14)	↓	パッソ	トヨタ	2,528
17	(11)	↓	ポルテ	トヨタ	2,467
18	(16)	↓	ヴォクシー	トヨタ	2,457
19	(-)	↑	シルフィ	日産	2,372
20	(26)	↑	CX-5	マツダ	2,108

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

## カービュー編集部独自の分析

■単月では前年割れに転じたが、年間では大幅なプラス！

ハイブリッド車と軽乗用車が牽引役に

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した12月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽乗用車を含め、国内で販売された乗用車総数は28万4046台で、前年同月比98.0%（貨物車、バスを含む新車総販売台数は33万8504台／前年同月比96.9%）と再びマイナスに転じた。しかし2012年の乗用車年間合計は9月までのエコカー補助金効果もあって、457万2332台、前年比129.7%（貨物車、バスを含む新車の年間販売台数は536万9721台／前年比127.5%）と2年ぶりに前年を上回り、新車全体では4年ぶりに500万台超を達成した。

特に軽自動車が197万9446台、前年比130.1%と好調で、新車販売全体に占める軽比率が36.9%と過去最高を記録。なかでも軽乗用車は12月も9万7686台、前年同月比102.3%と15カ月連続で前年を上回り、年間合計は155万7681台、前年比136.8%と全体を押し上げた。

輸入車を除く国産乗用車は25万6392台（日産マーチ／ラティオ、三菱ミラージュ、軽乗用車含む）で、前年同月比は96.2%。年間合計では432万6782台、前年比130.5%となった。メーカーブランド合計では、12月単月ではレクサス、ホンダ、マツダ、スバルは前年を上回り、トヨタ、日産、スズキ、ダイハツ、三菱が前年割れと明暗を分けたが、年間合計では2.3%減の三菱を除き、前年比はプラスで、9.0%増の日産以外は2ケタ増だった。

全乗用車の年間ランキングでは、「トヨタ プリウス（α含む）」が31万7675台、前年比25.8%増で4年連続トップ。2010年の31万5669台を上回り、過去最高を記録した。2位は2011年末発売の「トヨタ アクア」で、26万6567台、3位はダイハツにとって2003年のムーヴ以来の軽No.1となった「ミラ（イース、ココア含む）」で、21万8295台、前年比81.9%増だった。以下、4位「ホンダ N BOX（+含む）」21万1155台（前年比7283.0%増）、5位「ホンダ フィット（シャトル含む）」20万9276台（同0.7%増）、6位「スズキ ワゴンR」19万5701台（同22.0%増）、7位「ダイハツ タント（エグゼ含む）」17万609台（同32.1%増）、8位「ダイハツ ムーヴ（コンテ含む）」14万6016台（同0.6%増）、9位「スズキ アルト（ラパン含む）」11万2002台（同34.8%増）、10位「ホンダ フリード（スパイク含む）」10万6316台（同57.0%増）と続き、ハイブリッド車（HV）かHVをラインナップするモデルが4車種、軽が6車種というベスト10となった。

また輸入乗用車は、12月単月では海外メーカー製のみで2万7298台、前年同月比119.9%（日本メーカー製を含む輸入乗用車全体では3万1170台、同124.4%）と8カ月連続のプラスとなり、年間でも23万9546台、前年比117.5%と3年連続で前年を上回った。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、12月単月ではメルセデス・ベンツが5812台で3カ月ぶりのトップ。年間ランキングではVW（フォルクスワーゲン）が5万6188台で13年連続輸入車ブランドNo.1を獲得。車名別年間ランキングでも「VW ゴルフシリーズ」が2万2252台で25年連続トップを達成した。

## ■各ブランドの「ココも気になる！」

### ●トヨタ/レクサス

ハイブリッド攻勢で世界 No.1 奪還を果たす

1997 年に世界初の量産ハイブリッド (HV) としてプリウスを投入して以来、トヨタの HV は昨年 2010 月末に国内累計販売 200 万台を突破。世界市場でも同時期までに 260 万台弱を売上げ、しっかり HV を基幹モデルに成長させたのがトヨタの強み。貨物車やバスを含めた年間の新車販売台数で、前年比 42.3%増の 164 万 6409 台を記録したのを含め、ダイハツ、日野を加えたトヨタグループ全体の世界販売で 970 万台 (見込み値) となり、2 年ぶりに世界 No.1 の座を確実なものとした。

年間ランキングで初の HV1-2 となったプリウス、アクアはもちろん、昨年 12 月のモデルチェンジで HV に注力したクラウンも、発売後 1 週間足らずで 1 万 2000 台まで受注を伸ばしている。今年は 1 月のデトロイトモーターショーで発表された新型レクサス IS にも HV を設定。さらに今秋にはカローラにも HV を追加する見込みと、HV 路線強化に余念がない。

### ●日産

三菱との合併会社による新型軽に注目

昨年は 3/5 ナンバーの乗用車 (登録車) 市場で 43 万 7052 台 (タイ生産のマーチ、ラティオ含む)、前年比 11.4%増と 2 年連続でホンダを上回ったものの、軽を含めた乗用車全体では 56 万 798 台、同 9.0%増にとどまり、貨物車やバスを含めた年間の新車販売台数ではダイハツ、スズキにも後塵を拝する結果となった日産。

量産 EV (電気自動車) の先駆者といえるリーフが狙い通りの売れ行きとならず、HV & 軽人気が乗り遅れてしまったようだ。ただ昨年 12 月には 2016 年までに HV を 15 モデル投入することを公表。さらに今夏には三菱との合併会社による新型軽が発売される見通しで、日産の巻き返しに要注目だ。

## ●ホンダ

軽強化策が当たり、国内 No.2 の座に復帰

一昨年に投入した N BOX を皮切りに、軽のラインナップ拡充に乗り出したホンダだが、それが見事に当たり、新しい N シリーズ (N BOX、N BOX+、N-ONE) が年間で 22 万 9157 台と大ヒット。登録車市場では 3 ナンバーミニバンの不調に加え、フィットがモデル末期で勢いを失ったことで 42 万 3701 台、前年比 12.3%増と日産に及ばなかったものの、軽を含めた乗用車全体では 71 万 2349 台、同 49.7%増で国内 No.2 の座を奪還した。

今年は夏頃にはフィットがモデルチェンジ予定で、ハイブリッドを含め、エンジンが新世代型に切り替わるはず。使い勝手のほか、低燃費でも人気のフィットだけに期待大だ。

## ●マツダ／スバル／三菱

独自路線の展開に目が離せない

CX-5 が 3 万 5438 台で SUV 部門 No.1 となり、日本カー・オブ・ザ・イヤーにも輝いたマツダは、軽を含めた乗用車全体で、19 万 2463 台、前年比 16.3%増と復調傾向に。ただデミオが年間 5 万 7820 台、同 93.7%と伸び悩み、昨年 11 月にモデルチェンジしたアテンザはクリーンディーゼル車に人気が集積し、納車に時間がかかっているのが不安要素だ。

軽を除く年間乗用車ランキングで 13 位とインプレッサが絶好調のスバルは、軽を含め、14 万 1065 台、同 31.2%増となった。今秋にはインプレッサ XV に HV を投入予定で、HV でもスバルらしさが出せるかがポイント。

ミラージュの投入で 5 ナンバー小型車部門は 32.2%増と好調だった三菱は、軽を含む乗用車全体では 10 万 6553 台、同 2.3%減にとどまった。アウトランダーPHEV やデリカ D:5 のクリーンディーゼル車といった本格エコカーが復調のカギになりそうだ。

## ●ダイハツ／スズキ

ダイハツが6年連続の軽 No.1 を達成

ミラ（イース、ココア含む）がダイハツにとって9年ぶりの車名別軽 No.1 となり、貨物車を含めた軽全体で67万4181台、前年比23.7%増と、6年連続の軽 No.1 メーカーに輝いたダイハツ。昨年末に大幅なマイナーチェンジが施されたムーヴにも期待できそうだ。

主力のワゴンRをモデルチェンジしたスズキだが、軽全体では58万4957台、同22.9%増でダイハツに大差をつけられたものの、登録車市場では堅調で、総新車販売では67万3138台、同21.7%増%で、67万7171台のダイハツに肉薄して見せた。今年はダイハツがモデルチェンジの端境期になるなか、スズキはパレットやSX-4のモデルチェンジが控えているだけに、激しいバトルになるはずだ。

## ●輸入車

お手頃クラスのニューモデルが続々登場

昨年はタイ生産などの日本メーカー製を除いた海外メーカー製輸入乗用車のみでも2年連続で20万台超と好調をキープ。VW、メルセデス・ベンツ、BMW（ミニ除く）、アウディ、MINI、ボルボのトップ6は軒並み2ケタ増の売れ行きで、9位ジープが年間4977台で57.8%増、11位アルファロメオは4452台で139.0%増など、大きく伸張したメーカーブランドが目白押しとなった。

今年は1月発表のメルセデス・ベンツ Aクラスを皮切りに、コンパクトなボルボ V40、プジョー初のミニバンとなる5008、そしてすでに海外試乗記などで話題のVW ニューゴルフなどがデビュー予定。しかも、いずれもリーズナブルな価格設定が噂されているので、輸入車ファンならずともに見逃せない。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 総務部 広報チーム ( [pr@carview.co.jp](mailto:pr@carview.co.jp) )

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180

---